

## 【巻頭言】

## 頑張れ、新社会人

たまだ あきら  
玉田 彰 (53 回生)



4月には私にとって一年でもっともワクワクする季節です。京都嵯峨野から大阪中之島まで、約2時間の通勤も早朝の寒さから開放されて、車内には暖かな日差しが降り注ぎ、車外に目を向ければ心を癒してくれる桜並木、30年以上も繰り返し味わってきた春の喜びです。

でも私よりワクワクしているのは、きっと新社会人としての生活を始める母校の卒業生だと思います。初めての一人暮らし、職場での新しい仲間との出会い、給料の使い道など様々な期待に胸を膨らませていることでしょう。

少なくともこの一年間は国家試験合格を目指し、さらに就職活動と人生で最も厳しい時間を乗り越えて来られたことと思います。本来なら「おめでとう、よく頑張りました」と健闘を称えたいところですが、このご時世そう甘くはありません。

私が就職したのは34年前、「とりあえず暗室業務だけできるようにして、後は半年くらいかけて撮影を覚えてくれたらいいからね」といった雰囲気でした。つまり一般撮影ができればもう一人前の放射線技師と認められた(アナログ時代だったので撮影条件にはかなり苦労した思い出がありますが)時代でした。

ところが昨今はCT、MRIやPET、益々進化を遂げる放射線治療など数々のモダリティに加え、チーム医療やリスクマネジメント、そして各種認定制度や専門技師試験がある。(昔の技師で良かったとつくづく思う)。そうなんです、習得しなければならない知識、技術が山積みになされ待ち構えているのです。

それだけではなく、一般社会常識や社交性も身に付けなければならないのです。何処の病院でも同じだと思いますが、業務に関しては計画的にきっちりと教育してくれますが、社会人としての教育は殆んどしてもらえません。だからどのように人と付き合い、どうすれば楽しい社会人生活が送れるかを見出せない若者が多いように思います。最近の新卒者は知識が豊富で、業務上与えられたテーマは淡々とクリアして、誰も一定期間に一人前の戦力として必ず育ててくれるのですが、一方仕事以外で何らかの楽しみ、目的を持っているのだろうかと疑問を抱くことがあります。何となく職場と家の往復で、休日は自宅でゲームやパソコンと向き合いつつゆっくり身体を休める、という生活パターンを繰り返す人が多いように感じています。これでは社交性もまた社会人としての人格もまったく磨けないのではないのでしょうか。時代が違うといってしまうかもしれませんが、私の入社当時は仕事が終われば毎日のお酒を酌み交わすかマージャンを打つか、土日は地元のサッカークラブの練習や試合に汗を流しました。身体を休める時間なんてまったくなかったような気がしますが、その時の色々な人々との出会い、教えがあったからこそ数多くの常識、社交性が得られたように思います。入社早々で頭の中は仕事のことだけで一杯なのはよく分かりますが、せめて休日だけは一週間の頑張りを振り返り、時として自分で自分にご褒美を出してあげる(同級生と食事するとかお稽古事を習うとか)事も大切ではないかと思います。因みに私くらいのベテランになると、梅田のガード下の立ち飲み屋に寄り「今日も一日良く働きました」のご褒美を毎日何の遠慮もなく頂戴するようになります。

要するに私が申し上げたい事は、仕事同様の重み付けを持って社会常識、社交性にも目を向けて欲しいのです。20代の間にできるだけ色々な所に出向き、多くの人と接し、色々な考え方を学んで欲しいのです。そういう意味では学友会の支部総会などは絶好の機会であるようにも思います。

「頑張れ、新社会人」学友会の先輩達は常々貴方達を応援しています。

最後に5月23日(土)に福岡で開催される学友会総会にも、多くの方の参加をお待ちしております。

以上